

2023年度事業計画（案）

（2023年1月1日～12月31日）

法人名称 NPO法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー

1. 事業活動方針

新型コロナウイルスの感染が大きく減少しない中、社会はウィズコロナの時代になだれ込もうとしている。そこには国民的合意よりも、経済の活性化や、円安への懸念、国民の鬱屈する心情が背景にあるように思われる。その意味では、2023年は、社会的な変化が起こりやすい、不安定な年になると思われる。

2022年度、Ed.ベンチャーの各事業では「語る場づくり」に向けた取り組みを加速してきた。そのもとで「女性の生きづらさ」を共通テーマとし、2023年の教育講演会でも、さらにこのテーマを掘り下げることになった。「女性の生きづらさ」は、今後も引き続き私たちが考え続けなければならないし、自らの経験を女性の生きづらさの観点から語りなおさなければならない。そして、そのことは一層不安定な社会の中で弱い立場に立たされた者たちの行方を一層敏感に追うことにつながっていくと考える。

こうした活動の上に「語る場づくり」をどのように発展させていくのかは、2023年度後半の重要な柱となっていくと考える。振り返れば、昨年の活動方針では、新型コロナウイルス後の社会として相対する二つの方向性を予想した。一つ目は、IT技術をベースとした世界産業構造ネットワークを更に発展させた世界の出現。二つ目は、コロナ禍によって表出した新自由主義的資本主義の矛盾（格差・貧困・移民・差別など）の是正を求める道、であった。しかし、この予想は大きく外れ、世界は第三の道に急速に方向転換し始めている。

第三の道、それは国際秩序の崩壊と軍事産業による経済の活性化である。

新自由主義で推し進められた国際的な枠組みは大きくきしみ始め、世界の様々な地域でポピュリズムの台頭、旧価値観の復権、軍事政権や極右政権の誕生を見ている。こうした動きは、新型コロナウイルスの影響とばかりは言えない。新自由主義のもとに発展した経済動向や自由主義陣営のゆがみが、その根底にはあるとみるべきである。

こうした状況の中、世界の国々で武器が売り買いされ、手渡されている。仮想敵国を名指しで認定することで民衆の合意を取り付け、軍需産業は活況を呈している。

そこに日本も参加した。2023年は、日本が再度軍事大国へと舵を切った年として、長く歴史に刻まれるに違いない。「敵基地攻撃能力」を「自衛の範囲」としたこと、防衛費予算枠を大きく拡大したことは、私たちの国の在り方を大きく変えるはずだ。こうした国の動きに、私たち一人一人がどのような考えを持ち、どのような行動をするのかが問われることになる。

この課題に、教育に関わるNPOとしてどのように対峙するべきか。

すぐに思いつくのは、「すべての人が戦争で命を失ってはいけない。だから私たちは平和を守らなければならない」という、教育現場で当たり前子どもたちに伝えてきたことが、「私たちが命を失わないために、他の国の人の命を奪ってもよい!」「これが平和の守り方です」に変わろうとしている、この転換にどのように向き合うのかという課題である。

そしてもう一つ、振り返ってみれば、Ed.ベンチャーは東北震災支援の際、福島原発被害に寄り添う活動への取り組みから、組織の方針として「原子力発電反対」を掲げてきた。しかし、軍備の増強とともに原子力発電への依存度を増す方向性が現在突如打ち出されている。こうした政治的な動きにも警戒しつつ、**未来への賢明な選択を再度強く求めたい**と思う。

いずれの課題も、私たちなりの「平和の守り方」を語る場づくりを通して模索されていく必要があると考える。

2. 事業内容

学校支援事業 ①理論学習会

事業概要	<p>昨年度は「学校が捨てられる・先生が捨てられる」をテーマに参加者で議論して、学校が置かれている状況や課題を整理した。子どもや保護者から期待されなくなった学校を改善していくためには、子どもを取りまく課題を捉え、教師自身が試行錯誤しながら、自ら変化し続けていくことが必要である。</p> <p>今年度は「捨てられない学校」に変わっていくためにはどうしたらよいかを考えていきたい。具体的には次の3点である。</p> <p>① 子どもの多様性に寄り添う「個別最適な学び」とは何か、個別の学びをどのようにして集団の学びにしていくか、また、その中で子ども一人ひとりの学びをどのように保障できるか。</p> <p>② 母親への要求が高いのはなぜか、女性が抱える生きづらさの背景にあるものは何か、母親が置かれている状況を理解することで、母親（保護者）と学校が、共に子どもを支えることを目指す。</p> <p>③ ICT 機器が導入され、子どもたちは授業を動画で分かりやすく学ぶことができる。では、教師だからこそできることは何か。教師に必要な専門性、果たすべき役割とは何か。</p> <p>参加者と議論することを通して、学校が置かれている状況や課題を整理し、改善に向けてどのようなことができるかを探っていきたい。</p>
事業目標	教育現場の状況を討論の中で分析し、客観視することで、今後の学校や教員のあるべき方向性を模索する。
担当者	●活動代表（理事）清水美希 根岸滯 村本綾
開催日時	<p>テーマ：捨てられない学校に変わっていくために</p> <p>4月29日（土）13:00～15:00 “個別最適な学び”をどう捉えるか</p> <p>6月17日（土）13:00～15:00 押し付けられる母親像～女性の生きづらさの視点から～</p> <p>8月26日（土）13:00～15:00 授業づくり「個別の学び」を「集団の学び」にするには （各自で授業実践を行い、その報告をもとに議論する）</p> <p>10月28日（土）13:00～15:00 テクノロジーが進歩しても、教師だからこそできることは何か</p> <p>12月16日（土）13:00～15:00 教師の専門性を高めるには、どのようなことができる」 （参加者が実践したいことを考え、持ち寄る）</p>
場所	大和市シリウス・オンライン（Zoom）（同時開催）
対象者	教員・学生・一般

収入予定金額	5,000円（受取寄付金）
支出予定金額	5,500円（賃借料5,000円、印刷製本費500円）

学校支援事業 ②スタディツアー（今年度活動休止）

学校支援事業 ③外国人の子ども理解のための学習会

事業概要	<p>① 学習会</p> <p>大和市には、数多くの外国にルーツをもつ子どもたちが暮らしている。しかし、来日経緯や家庭の状況、普段子ども達がおかれている環境を知る機会が極めて少ない。そこで、学習ボランティア希望者や、学校教員、一般市民を対象に外国人の子どもたちが置かれている状況や課題を理解し、様々な教育現場での支援に役立てていくために、学習会を開催していく。</p> <p>4月の「外国人の子どもの自己形成～対話の持つ意味～」では、国際教室での雑談ともいえる他愛もない対話が、記憶や言語の発達、自己形成にとっても関係しているのではないかと国際教室で何をしたらいいかわからないという人に限らず心配な児童生徒がいるけれど、その聞き手役としての存在が大切なのではないかと、ということを紐解く学習会にしていきたい。</p> <p>また8月の「外国人が抱える家族の葛藤～女性に焦点を当てて～」では、昨年度の内容に加えて、「学校-狭間-家庭」の中で女性がどう閉ざされていくのかに迫っていく学習会を開催する。特に大変な子や親は母子家庭やヤングケアラーの子が特に多いと感じるが、国別（フィリピンだけでなく中国、インドシナ、南米）でもどのような傾向があるのかも含め、理解を深めていきたい。</p> <p>②事例研究会</p> <p>外国にルーツを持つ子どもたちの具体的な事例を学校の先生方に提供してもらい、協議を通して、彼らの背景にある様々な事情や問題を読み解く力をつけていこうという目的で、月1回程度開催する。外国人の子どもに対する授業についても研究する回を設ける。</p>
事業目標	外国人の子どもの現状や課題を理解する場、外国人の子どもに関する専門的な知識を学ぶ場を企画運営する。
担当者	●活動代表（理事）西岡歩 ○スタッフ 篠原弘美
開催日時	① 4月25日（火） 19:00～21:00 外国人の子どもの自己形成～対話の持つ意味～

	<p>講師：宮崎あゆみ氏（日本女子大学学術研究員） 清水睦美氏（日本女子大学教授）</p> <p>8月4日（金）13：00～17：00 外国人が抱える家族の葛藤～女性に焦点を当てて～ 講師：宮崎あゆみ氏（日本女子大学学術研究員） 清水睦美氏（日本女子大学教授）</p> <p>② 月1回（1月4月8月12月は除く）全8回 水曜日 19:00～21:00 2・5・7・10月 土曜日 13:30～15:30 3・6・9・11月</p>
場所	大和市シリウス・大和市ポラリス・オンライン（Zoom）
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	20,000円（参加費15,000円、受取寄付金5,000円）
支出予定金額	26,674円（賃借料4,400円、諸謝金22,274円）

学校支援事業 ④インクルーシブな社会を目指す学習会

事業概要	<p>今年度も「インクルーシブな社会の実現」を目指して、いくつかの側面から迫ってみたい。</p> <p>第1には、インクルーシブな社会を目指そうとしても、実際にはさまざまな壁がある。その一つが命に優劣をつける「優生思想」である。日本にも現行憲法下で1948年に成立した「旧優生保護法」が1996年まであり、強制的な不妊手術を2万人近い人が受けているといわれている。しかし、それだけでなく、それは私たちの日常生活に潜んでいて、私たちは気づかないうちに「優生思想」につながるような思考をもってしまうている。このような側面を批判的に捉え直したい。もう一つは新自由主義のもとで広がる格差で、これもインクルーシブな社会に立ちほだかる壁である。この観点では「家出をする女の子」の語りに焦点をあてて検討してみたい。彼女たちに見えている「家」や「学校」を知ることで、私たちが「家」や「学校」という制度を批判的に捉え直す視点を見つけられるのではないかと考える。</p> <p>第2には、そうした壁はありつつも、身近な取り組みからインクルーシブな社会を目指す一歩を見つけ出してみたい。取り上げる実践の一つは、タブー視される「性」の問題を、子どもたちの経験に寄り添った対話の中で解きほぐすという実践である。「対話」を通して、子どもたちは自他ともにその存在を肯定すること、多様性を認めること、自己選択ができるようになっていくという。そこからは誰もが生きやすい社会に向かうための方法を見つけ</p>
------	--

	<p>ることができるのではないかと考える。取り上げるもう一つの実践は、学校と地域の連携である。このスローガンはとてもよく聞くものであるが、実際にはかなり難しい。今回は、同じ地域にありながら交流のなかった学校と児童養護施設が交流したことにより、それぞれに起きた変化に注目しながら、学校と地域の連携が、子どもたち一人ひとりの生きていくことをどのように支えることになるのかを考えるきっかけをつかみたい。</p> <p>第3には、私たちが目指すインクルーシブな社会を、私たちは子どもたちにどのように伝えていくことができるのだろうか、という問いのもとでの授業実践を提案してみたい。枠は1時間の道徳の時間である。まずは、何をどのように扱うのか、どのように展開するのか検討する。次に、可能であれば授業提案者以外の協力者にもそれぞれの場所でも実践してもらおう。最後には、それらを持ち寄って実践報告して交流をしてみたい。そこでは授業実践の向上というよりも、授業を通して、子どもたちが、そして教師たちが、何をどのように理解することになったのかに注目しながら検討してみたい。</p>
事業目標	<p>① インクルーシブな社会の前に立ちほだかる私たちの日常生活に潜む既存の理解の枠組みを批判的に捉え直す。</p> <p>② 身近な実践からインクルーシブな社会を目指す方法をみつけ出す。</p> <p>③ 学校の授業で、目指すインクルーシブな社会を、どのように提示できるかを検討する。</p>
担当者	<p>●活動代表（理事） 森尾宙 山口貴子</p> <p>○スタッフ 清水睦美</p>
開催日時	<p>5月23日(火) 19:30~21:00 学習会：日常生活に潜む優生思想について考える —インクルーシブな社会に向かう時の大きな壁— 講師：松波めぐみ氏（世界人権問題研究センター登録研究員）</p> <p>7月6日(木) 19:30~21:00 学習会：家出する女の子は何を語るのか—一家のこと、学校のこと— 講師：橋ジュン氏（特定非営利活動法人 BOND プロジェクト代表）</p> <p>8月22日(火) 19:30~21:00 学習会：対話の中の性教育 話題提供：山口貴子氏（児童養護施設職員）</p> <p>10月5日(木) 19:30~21:00 学習会：地域と学校の連携 講師：漆原豊和氏（児童養護施設職員） 西岡歩氏（中学校教諭）</p>

	<p>10月12日(木) 19:30~21:00 授業研究会：インクルーシブな社会を目指す授業実践提案 授業提案者：森尾宙氏(座間市中学校教諭)</p> <p>11月30日(木) 19:30~21:00 授業研究会：インクルーシブな社会を目指す授業実践報告 報告者：森尾宙氏(座間市中学校教諭) + 授業実践協力者</p>
場所	オンライン (Zoom)
対象者	教育関係者
収入予定金額	5,000円 (受取寄付金)
支出予定金額	35,411円 (諸謝金 33,411円、消耗品費 2,000円)

外国人支援事業

⑤子どもの居場所・学習支援教室(エステレージャハッピー教室)

事業概要	<p>外国にルーツのある子どもの学習の遅れは日本語能力の不足が原因となっている場合があるので、日本語能力を伸ばすことを意識しつつ、丁寧な説明を加えながら、学習内容の理解を深めていくことで、学校における学習に主体的に取り組むことができるように、それぞれの子どもの寄り添った形での学習支援を行う。</p> <p>①学習支援</p> <p><小学生教室> 学習や遊びを通して子ども同士の関わりが深まるように促していく。教科学習として、宿題の他、国語・算数を中心に学習の支援を行う。</p> <p><中学生教室> 普通の学習支援の他に定期テストや高校受験の支援も行う。定期テスト前にはテスト対策の学習会を、中3生には高校受験対策学習会を準備する。また、2,3年生には進路学習会を実施し、先輩の経験から進路について学ぶ機会を持ち、早くから将来について計画を持てるような時間を作る。</p> <p><集団学習> 小中学生が共に学んだり体験したり話し合ったりすることを通して、異年齢の仲間と協力したり関係を深められるように集団で学ぶ時間を設ける。</p> <p>②母語教室 子どもたちの母語の維持、獲得のために、母語話者の講師による母語教室を定期的で開催する。</p> <p>③保護者面談 定期的に面談期間を設け、教室での様子を保護者に伝えるとともに、家庭や学校での様子をきく。また、困りごとがあれば相談に乗る。</p>
------	--

	<p>④教室運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録制（登録料として1か月100円を徴収） ・3学期制（1学期4～8月、2学期9～12月、3学期1～3月） <p>⑤スタッフの育成</p> <p>スタッフ・ミーティングの充実をはかるとともに、外国にルーツがあるスタッフに対しては母語教室を開催する。</p>
事業目標	外国にルーツのある子どもの居場所作りと学習支援を行う。さらに家庭や学校の様子を聞いて可能な範囲で支援を行い問題の解決を図る。
担当者	<p>●活動代表（理事）馬場貴司 福島聖子</p> <p>○スタッフ 角替弘規 篠原弘美 保坂克洋 根岸佐織 横矢玄 高島ヒトミ 滝川舞 ジェマイマ・ルース・アゴコプラ 佐藤ひより 吉川智洋 奥山奈希沙 津波りえ 井上哲夫 相模女子大学ボランティアサークル「ミント」</p>
開催日時	<p>② 毎週土曜日 10:30～12:30（定期テスト対策・中3受験対策は随時）</p> <p>②毎月1回第3土曜日開催</p> <p>③每学期末</p> <p>⑤毎月1回第4土曜日</p>
場所	大和市立林間小学校 大和市シリウス 大和市ベテルギウス等
対象者	大和市及び近隣在住の外国にルーツがある小学生・中学生
収入予定金額	258,400円（県労協助成金250,000円、登録料8,400円）
支出予定金額	443,243円（給与手当172,440円、賃借料69,000円、諸謝金76,843円、旅費交通費7,900円、印刷製本費6,000円、消耗品費99,000円、保険料12,000円）

子ども支援事業 （該当事業なし）

学校・外国人・子ども支援に関する普及啓発事業

⑥教育相談

事業概要	<p>学校・教師・行政・子ども・保護者・外国人当事者・支援団体等の各種相談に応じることを目的とし、今年度は以下を行うこととする。</p> <p>①(2019年より継続)「すたんどばいみー基金」から移管された当事者相談事業：4名（S、E、R、H）</p> <p>②多言語若手通訳派遣事業</p> <p>A 通訳登録（6名予定）</p> <p>B 通訳派遣（Aの登録者の派遣）</p>
------	--

	③必要に応じて新規相談を受け付ける。
事業目標	相談事業を通して、ニーズの把握と必要な事業の展開の仕方を検討する
担当者	●活動代表（理事）松永雅文 清水睦美 ○スタッフ 篠原弘美 林幹也
開催日時	①該当者4名（S、E、R、H）に対して随時 ②随時必要に応じて行う。また、必要に応じて研修機会を設ける。 ③必要に応じて随時
場所	①～③ 必要に応じて適宜設定
対象者	相談者
収入予定金額	0円
支出予定金額	110,224円（諸謝金100,224円、雑費10,000円）

学校・外国人・子ども支援に関する普及啓発事業

⑦普及啓発活動

事業概要	<p>学校支援、外国人支援、子ども支援の必要性を広く市民に呼び掛けるとともに、当法人の活動理念と活動を知ってもらうための活動を以下の9部門に分けて展開する。</p> <p>①広報誌「Ed.ベンだより」の作成と配布 ②ホームページの更新・管理・運営 ③2023年度版パンフレットの作成と配布 ④15周年記念誌の作成・配布 ⑤特定のテーマ（a. 脱/反原発 b. 女性）に関する情報発信 ⑥資料・書籍の管理販売 ⑦他機関・他団体との関係構築 ⑧渉外（研究者対応を含む） ⑨会員に対する情報提供</p>
事業目標	<p>社会に対して当法人の理念と活動を紹介しながらその位置づけを明確にし、社会的に弱い立場にある人々に対する支援の重要性を普及・啓発する。</p> <p>2023年度も「女性の生きづらさ」に焦点を当てた情報発信に留意する</p>
担当者	<p>●活動代表（理事）角替弘規 下新原なつみ ○スタッフ 池田喬 清水睦美</p>
開催日時	<p>①Ed.ベンだより発行：2・4・6・8・10・12月（年6回）（うち、数回は女性に関わるテーマを扱う。） ②ホームページ公開（随時更新）（理事推薦本のテーマを「女性」「家族」「ケア」「男性の加害性」「平和」を中心としたものとする。HP上に女性</p>

	<p>に関わる問題の学習に関係のありそうなコンテンツを掲載するための専用ページを設置、随時更新する。)</p> <p>③2023年度版パンフレット配布：4月上旬</p> <p>④15周年記念誌配布：2月</p> <p>⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨は随時</p>
場所	当法人事務所またはオンライン (Zoom)
対象者	① ② ③ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧一般、④ ⑨会員
収入予定金額	0円
支出予定金額	293,550円(印刷製本費 104,000円、通信運搬費 107,550円、消耗品費 42,000円、業務委託費 40,000円)

学校・外国人・子ども支援に関する普及啓発事業

⑧教育講演会

事業概要	<p>2022年度教育講演会は、「女性の生きづらさ」をテーマに扱った。そこから、1年間各事業の視点で、このテーマについて議論を進めた。2023年度の教育講演会を企画検討する中で、引き続き「女性の生きづらさ」について、より身近なものとして考えていきたいとなった。そこで、有志により「女性の生きづらさを語る場」を計7回開催した。それぞれの経験を振り返り言葉にし、語りあった過程は、非常に意義のあるものであった。</p> <p>今年度の教育講演会は、「女性の生きづらさ」について「家族」「自立」「学校」「男性の加害性」をディスカッションの柱として、5名のパネラーにそれぞれ語ってもらう。さらに、講師の本田由紀先生も交えて、「女性の生きづらさ」の実態についても一度議論を深めていく。</p> <p>また、引き続き「女性の生きづらさ」を共通テーマに各事業を展開する。夏に、それまでの各事業の取り組みを振り返る学習会(拡大事業報告会)を開催する。</p> <p>2022年度の企画検討の経緯を踏まえ、これまで普及啓発事業内の一部としてきた「教育講演会」を、今年度より単独の事業とする。検討会を企画し、参加者を募り、社会状況の動きを注視しながら、今私たちが考えていかなければならない課題について、議論を重ね考えを深めていく場としたい。2024年度教育講演会に向けては、2023年度当法人活動方針として、「平和の守り方」が挙げられているので、それを大きなテーマの1つの候補として、準備を進めていく予定である。</p>
事業目標	<p>現在の社会状況を踏まえて、教育講演会で扱うべきテーマを検討する。それを踏まえて、参加者に問題提起し、互いに議論する教育講演会を企画・運営する。</p>

担当者	●活動代表（理事）池田喬
開催日時	○教育講演会 2023年2月23日（木）13:30～17:30 「逃れられない問題としての『女性の生きづらさ』」 講師：東京大学大学院教育学研究科教授 本田由紀氏 ○拡大事業報告会 2023年夏 ○検討会 2023年夏以降、計4回を予定
場所	教育講演会：富士見文化会館 拡大事業報告会、検討会：シリウス
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	30,000円（参加費）
支出予定金額	78,801円（賃借料22,800円、諸謝金33,411円、印刷製本費22,590円）

⑨法人の事業円滑実施のための活動

事業概要	法人の事業の円滑実施のために、次の3部門の活動を行う。 ① 総会・活動報告会・事務局会議 ② 会計 ③ 外部からの依頼に対応
担当者	●活動代表（理事）篠原弘美 内藤順子 ○スタッフ 松永雅文 清水睦美 角替弘規 池田喬 （会計）清水睦美 篠原弘美 小西永里子
開催日時	① 総会：2023年2月23日（木）10:30～11:30 富士見文化会館1階 101号室 活動報告会：原則奇数月、会計年度末臨時 事務局会議：原則偶数月 ② 会計処理：原則月1回 会計確認（締め）：年3回（1月、6月、10月） 会計監査：年1回（2月） ③ 必要に応じて対応
場所	富士見文化会館、当法人事務所、部室、オンライン（Zoom）
対象者	法人内会員
収入予定金額	652,000円（受取会費580,000円、雑収益72,000円）
支出予定金額	290,500円（通信運搬費102,800円、消耗品費5,500円、水道光熱費39,600円、租税公課18,300円、保険料4,490円、諸会費5,000円、雑費114,810円）